

**2022年度 競技スポーツ支援部**

**スポーツ理学療法講習会**

# **スポーツ理学療法の実践**

**(バスケットボール競技の下肢疾患への対応)**

**開催日：2023年3月5日（日）**

**場所：オンライン 9:00-12:20**

**参加者：104名**

# 講師： 清水 結 先生（とつか西口整形外科スポーツ医学センター）

「女子バスケットボールトップチームでの活動経験から、スポーツ現場で求められる下肢疾患への対応について紹介する。早期復帰とパフォーマンスの両立はどこまで可能なのか、一方で、後遺症をいかに残さずにプレーさせるか、選手生命を短くしないための対策も重要な課題である。」



# 講師： 玉置 龍也 先生（横浜市スポーツ医科学センター）

「現在、横浜市スポーツ医科学センターが行うプロバスケットボールのサポートにおいて、理学療法士は競技現場及び医療施設におけるパイプ役として活動し、現場ではさまざまな職種と円滑に連携している。本講習会では、サポートにおける理学療法士の役割とともに、選手への対応として行なっている機能評価、動作分析、徒手療法、運動療法などを紹介する。」

## 足関節・足部アライメント可動性の評価



# 講師： 栗原 智久 先生（日本鋼管病院）

「当院では1次予防で有効であったバスケットボール選手に対する予防プログラムをACL再建術後のリハビリテーションに応用し、再建靭帯損傷の発生を減少させている。本講習会では初発ACL損傷予防やACL再建術後リハビリテーション、また足関節捻挫後のリハビリテーションについて動画などを交えて紹介する。」

## まとめ

- ✓復帰の基準を明確にする.
- ✓ACL再建靭帯断裂予防は競技復帰につながる.
- ✓受傷機転、プレースタイルに留意する.
- ✓足関節捻挫は再発に注意し、CAIに移行させない.

